

研究の歩み刊行に寄せて

上尾市教育委員会
教育長 池野 和己



このたび、上尾市立平方幼稚園が開園57年目を迎えられ、これまで実践してこられました研究などを改めてまとめ直し、「平方幼稚園研究の歩み」を刊行されますことは、誠に意義深く、心から敬意を表します。

本園は、昭和40年4月に、地域住民の皆様から強い要望を受け、平方小学校の校舎の一部を仮園舎とし、開園いたしました。昭和50年代初めには、上尾市の人口増加に伴い、在籍園児が200名以上に達しておりました。これまで、地域に愛される幼稚園として、卒園生及び保護者・地域の皆様に支えていただきながら、歴代の園長先生のもと、教職員の皆様の御努力で歩み続けてこられたものと認識しております。

さて、平成30年4月に幼稚園教育要領が改正され、「幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」が示されました。さらに、令和3年7月に中央教育審議会教育課程部会において「幼児教育スタートプラン」が策定され、幼児教育を取り巻く環境は、大きな変革を迎えようとしております。

そのような中、本園におかれましては、これまでに取り組みされた埼玉県教育委員会・上尾市教育委員会の委嘱研究や園内研究を振り返り、研究の成果について改めてまとめ直されました。積み重ねた実践の中で共通しているのは、「幼児の姿」を中心に据えて教育を行うという教師の姿勢です。これは、新しい時代においても変わらず大切にすべき事柄です。常に「幼稚園教育要領」を踏まえ、目の前にいる子供たちの笑顔のために取り組んでこられた研究の成果は、本市の幼児教育の充実に寄与するものでございます。

結びに、これまで御指導を賜りました指導者の方々、御支援いただいた保護者・地域の皆様に厚くお礼申し上げます。また、歴代の園長先生をはじめ、教職員の皆様の熱心な研究への取組に対し感謝を申し上げますとともに、本市の幼児教育の推進の一助となりますことを祈念し、挨拶いたします。